

NEWS

開港のひろば

編集・発行／横浜開港資料館（財横浜開港資料普及協会）
発行日／平成10年4月29日(水)

Number
60

横浜市中区日本大通3番地 〒231-0021 電話 (045) 201-2100
印刷／株エイコープリント



横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図 二代国鶴画

「市民」ということ

今日、「市民」というと、地方公共団体である市の住民というほか、「市民権」とか「市民運動」とか言うように、国政に参加する資格と権利の担い手、公民という意味がある。後者は極めて歴史的な概念であり、西欧の近代ブルジョア革命の所産になる。この市民概念は、わが国には、西洋文物の移入と共にもたらされることになる。

明治期の著名な啓蒙思想家、福沢諭吉の著書『西洋事情』下編巻二（慶應二年）には、「家産中等の市民」

「市民の職分」の用例があるが、同時に「市中の小民」「市中の人民」があり、明治八年『文明論之概略』にも「田舎の土民と都会の市民（第六章）」とあるように、田舎や地方の住民に対する、市街地や都市の住民という意味に用いている。

同時に、福沢は『文明論之概略』第八章「西洋文明の由来」の中で、中世の自由都市を「フリイ・シチは自由なる市邑の義にて其人民は即ち独立の市民なり」と説明し、帝王や貴族から自立し、城壁や兵備を整え、独自の法令や公会を持つ自由都市の構成員といふ市民概念を提示する。その意味において、わが国の「開闢の初より今日に至るまで、全日本国中に於て独立市民等の事は夢中の幻に妄想したることもある可らざることになる。

それでは、わが国に独立の市民はいつ登場するのか。

『横浜毎日新聞』明治十一年五月十九日の社説「横浜市民ノ目的」は、



新時代への胎動 —開化期の横浜市民—

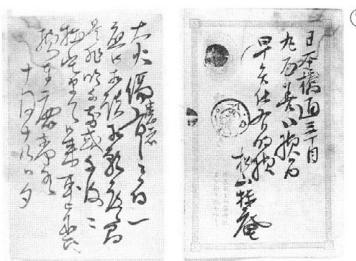
市民の象徴「横浜町会所」
(当館蔵「横浜諸会社諸商店之図」から)

ガス局事件・歩合金紛議・区戸長公選要求は「市民ガ骨折シテ積立タル歩合金ヲ公明ニ遣ヒ拝ヒタシ」との一念から起きたものと述べ、翌十二年十月三十日の社説「横浜市民ノ独立精神」では、外国商人に公正な商取引を要求した鉄輪事件は、昨年のガス局事件に始まる横浜市民の独立精神の発現であると論じた。ガス局事件こそ、いちはやく横浜に「市民」を登場させ、その独立性を鍛えたものではなかつたか。

（佐藤孝）



早矢仕 有的



⑦

倉庫の設立まで、検査のため外国人の倉庫に生糸を持ち込んだ商人には蔵切手と火災保険証を渡す旨のウイルキン提案を受け取った仲裁人の木村が、直ちに「御高案為伺度次第二有之候間、御出港御座候ハ、御立寄被下度奉願候」と、早矢仕の意見を求めた書簡である。この翌日、ウイルキン案は荷預所の株主総会にかけられるが、扶桑商会の子安峻の対案で、共同倉庫設置案は否決された。子安と同じ直貿易論者の早矢仕はどう助言しただろうか。

横浜商法會議所の設立と早矢仕

④は、明治十二年一月末日の米柄壮兵衛と木村利右衛門の書簡。「兼々御配慮被下候共に物依頼書総代人一同調印相済候ニ付、請取方着手前万事之手筈相定置申度、且商法會議所設立一件も規則草案兩三日中出来之積ニ御座候、旁以不日集会相催し候間、四五日中御出港被下候様相願度」云々。地方税規則の制定でガス局は本町外十三か町の共有物になつたが、引渡しを拒む区長を告訴し（四月二十四日）、取戻し後の運営等万端の体制を整え、かつ商法會議所の規則草案を検討する会合への出席を求めたもの。会議所は、同年暮れに発起人大会、翌十三年五月に正式発足するが、十二年早々米柄・木村らを中心にして計画が進められ、近く規則草案が出来次第、準備集会の予定という。米柄は小野光景の義弟、本町外十三

か町共有物の管理責任者、のち商業會議所会頭に就任した小野を補佐する副会頭として活躍した。

⑤は、六月十三日付け小野光景書簡。「例之會議所一条昨朝原氏ニ面会順々申談候」顛末を報じたもの。會議所は是非設立したいが維持する見込みが立たないとの原の悲観論に、小野は「私も會議所ノ事ハサツ張心得不申候得共、先頃中より早矢仕君ノ注意ニテ承知致、自分丈ハ果シテ有益アルモノト見認ニ付一日モ早ク開設ヲ望居候」「私ハ丁度好機会ト存候間、兎ニ角アナタガ主任之思召ニテ万事御尽力被下度」「兩三日ノ内福沢君御出港ヲ願、両三輩集合シテ此相談相願テハ如何ヤ」と尋ねたところ、原は「至極宜敷」と答えたので、「福沢君外イカヒ君（猪飼麻二郎）御同伴一日横浜へ御出向相成候様呉々御取計被下候」と福沢来浜の周旋を依頼し、其の折には戸塚

と共に同席して「會議所ノ義ヲ相同事存候」と書いている。別に、同日付の戸塚千太郎書簡があり、改めて早矢仕に、福沢・猪飼との同行と来浜の日時打合せを依頼している。商法會議所設立過程の内幕を伝える書簡で、早矢仕が會議所の何たるかを小野に説き、小野と戸塚が原を担ぎ出し、早矢仕の仲立ちで福沢との会談を実現させ、一挙に準備を進めようとしている様子がわかる。

⑥は、十二月二十六日の神奈川県権令野村靖の「林有的」宛て書簡。「商業講脩所之義ニ付御面語致し度候間、來ル廿八日頃迄ニ出港之序も有之候ハ、県庁又ハ自宅ヘナリとも御出相成度、此段申進候也」とある。横浜商法學校の開校は明治十五年、十二年十一月に本町外十三か町連合町会が商法講習所開設を決議するが、本書簡は、野村の権令在任から、九年か十年のいづれかのもの。

この早い時期の、神奈川県の商業医学校への関心を示すものである。

医者としての早矢仕

早矢仕は、もと医者であった。明治三年、福沢は、突然の熱病で一時は人事不省の重体に陥つたが、英医ウリスや米医シモンズ、伊東玄伯や石井謙道ら、それに「横浜の友医エドワード・スコット」により「先づ日本にては最上の治療を施」し、蘇生したのである（十月十四日、九鬼隆義死て書簡）。丸屋創業期の多忙な時期、現役の西洋医であり、診療所を設け、また県の委嘱で種痘に従事した。

⑦は、慶應義塾の先輩で横浜十全医院（或いは慶應義塾医学所か）の松山棟庵が、早矢仕に宛てた葉書。明治十年十月十八日夕の投函で、「大火傷患者有之ニ付一応御相談相願度候間、是非明日前或午後ニ拙宅まで御来車被成下候様奉庶希候」とある。治療上の意見を求めたものか。

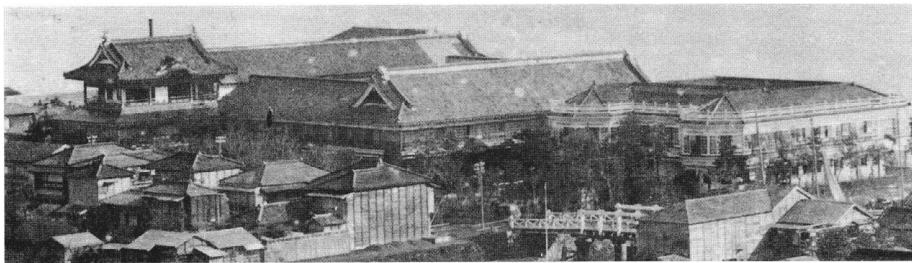
今後、「故人交友帖」を全面的に分析することにより、横浜政財界の相談役・指南役、また慶應人脈の仲介役としての早矢仕の輪郭がより鮮明に浮き上がつてくることだろう。

また、明治初年から十数年にかけての経済・金融制度の準備過程の不明部分を照射し、早矢仕の未発の役割を明らかにすることだろう。

末筆ながら、種々お力添・ご教示を賜わった学鑑編集室の西村みゆき氏に篤くお礼申し上げます。（佐藤孝）

神奈川神風閣の全貌
三層樓の向こうに発電所の煙突
が見えてる。

当館所蔵古写真



賀郡石橋町に生れ、三十四年横浜高島町山口家の女婿となり、夫人梅子と共に日露戦役に献身的活動を為し大に功勞あり、君役後旧神風閣跡に神風閣料理店を開き、神奈川教坊第一の繁昌を極めしが、店員其人を得ず、一時休業することとなり、四十一年秋再び捲土重來の勢を以て、其料理業の中興を計り、あり、其梅子夫人と山口家を離れて、伊沢姓に帰れるは三十九年なりと云ふ

順三の義母トメの別れた夫仙之助は、箱根宮ノ下で富士屋ホテルを経営し、四一年五月の神奈川県下「実業十傑投票」で三位に入選するほどの成功を収めていた。夫人の梅子は居留地四番館両替商エクスチエンジ・マーケットの経営者ジョン・コリアーの娘、コリアーの事業の後継者トム・ラ斐ンは実業家としてまたスポーツマンとして、外国人社会の名士になっていた(山口由美『箱根富士屋ホテル物語』一九九四年)などによる。周囲のサクセス・ストーリーがプレッシャーとなり、日本「日本一の料理屋にしたい」などといふ野心を起こさせたのかもしれない。しかし、伊沢姓に復したということは離縁されたということであつて、それは神風閣の経営の失敗と関係があるのでないか。四三年九月一日付『横浜貿易新報』には「神風閣の切売り」と題して家屋売却の記事が出ている。

【横浜名物 ナンバーナイン焼失】

西洋館のほうは四「年以来須藤鉱作の經營する神脳院となつてゐた。

その後身の紫雲会横浜病院「六十五年のあゆみ」

(一九七二年)に

よると、神奈川県下「最初の精神病者收容施設」

であった。

冒頭で紹介し

た記事に戻ると、

火災は四年三月六日午前零時三〇分頃発生し

た。「神脳院の

裏手辺より出火し、棟続きなる

日本建の大伽藍全焼し、且つ入

院中なる内外人二名の焼死者を

出したり」とい



後に神脳院となる西洋館 当館所蔵古写真

【焼死せる 直転直下の英國貴族】

この記事を見付けたとき、ちらつと目に入つた「ドクトル・ウイルビー」の文字から、犠牲者の一人

は医者だとと思つたのだが、よく読んでみるとこの人も患者だった。

「横浜神脳院に入院して、死を遂げた英國貴族ドクトル・ウイルビー

氏は三百余万円を有するウイルビーフ一家の一族なるが、

神風閣の跡地が属していた七軒町の名称は、昭和七年の町界町名整理の時に廢止され、新設された栄町に含まれることになった。現在は三層楼のあつたあたりを首都高速横浜羽田線が突つ切り、再開発地域の一帯はそれに組み込まれ、国道一五号線(第一京浜)からみなとみらい21地区へ抜ける栄本町線が貫通し、往時をしのばせるものはない。苦と樂と、成功と失敗と、そして欲望や絶望が渦巻いた土地とは思えない無機質な空間が広がっている。

正初期神奈川青木七軒丁繁盛之図

に対する宿泊や待合の姿を見ることがで

きるのはそのおかげである。なお、神脳院は青木町広台に新築移転した。

意になり、互に各市を飲み歩きしが、遂に墮落して兩人とも長者町の木賃宿第二小川屋の一室に合宿する事となり、相變らず酒に耽り居りしが、昨年十二月中旬に至り、酒の中毒に

て病床に就きしを、英國領事館にて聞込み、サルベイシヨンア、ミーと交渉の末、同月下旬横浜病院に入院せしめたれば、一ヶ月内外にて全愈せしかば、其後はサルベイシヨンア、ミーにて引取り、本国より送金する百円を支給し療養せしめ居たるが、同人は其の送金の大部分を酒食に供したれば、往々小遣い錢にさへ苦しむといふ窮境に陥りしを、英國領事館及びサルベイシヨンア、ミーにて補助し、万般の世話をなし居たり。

「ドクトル」と呼ばれていた理由は記されていない。葬儀万端は英國領事館が整えたという。

ア、ミー(救世軍……引用者)方に

宿泊中、米人ジョンスなるものと懇

数年前精神病に罹り、療養の効見へざりしを以て、風光明媚なる我が國の空氣に浴し療養せんと二年前来朝し、山下町八十八番サルベイシヨン

(斎藤多喜夫)

横浜市政と中村房次郎

本稿では、前回の展示に出陳した中村房次郎あての書簡（松崎仁氏所蔵）の中から、横浜市政にかかわるものを選んで紹介する。

有吉忠一の書簡

有吉忠一は大正四年から神奈川県知事をつとめ、多摩川治水問題に尽力したことで知られる。その後兵庫県知事、朝鮮総督府政務監などを歴任し、大正一四年五月五日、第一〇代市長に就任した。

有吉は緒についたばかりの震災復興事業を推進するため、就任一ヶ月後、六月から市の行政機構改革を矢

継ぎ早におこなったが、左に全文を掲げる大正一四年五月三日の書簡は、有吉が水道瓦斯局長の任用方針の変更を含めた行政改革案を中村に提示し、了解をもとめたものである。民政派のトップである中村の賛成を得ることが、市会対策上必要だったと思われる。

拝啓 昨朝御光榮を得御話申上候水道瓦斯局之分離ハ弥々明日発表之予定ニ御座候間御清了被下度尚其後任ニ就てハ一寸他より採用可致旨申上候候へ共専熟考之結果此際人心之安定を期する上よりも又部内之奮發心を喚起する上よりも且又経費節約の上よりも現任之堀江水道技師及渡辺瓦斯技師ハ人格の点ニ於て非難なく技術又優秀と被認候間當分之を局長心得ニ据え事務処理上支障なきを確

取斗らふ事ニ致候間御承知被下度候。尚今後吏員之採用ハ充分慎重ニ致度任用規程を設くると共ニ詮衡委員を設け總而之が同意を得るにあらされハ任用せざる事ニ致候。且又各部局課の事務処理上連絡なきが為め往々支梧マツラを生ずる哉の憂有之候ニ付毎週一回局課長会議を開き之に監査員を交え監査上の注意を陳べしめ各局課の意見をも聞之事ニ致候。之より部内の吏員の能不能勤惰を充分精査致し信賞必罰の実を挙げ度希望ニ有之候。殊ニ上級吏員之数多く下級の吏員の手当可驚小額の様被存為は吏員ハ内職を本収入とするものすら有之哉ニ承り意外の感を催し候次第此等も予算を整理し費額を増加せず而此等の吏員之給与を相当ニし専心市の事務ニ從事せしむる様為致度存居候。孰れ此等の点も拍眉之節可申上候へ共不取敢過日水道局長之任用ニ関し申上候處と相違を生し候間為念と思われる。

哉ニ承り意外の感を催し候次第此等も予算を整理し費額を増加せず而此等の吏員之給与を相当ニし専心市の事務ニ從事せしむる様為致度存居候。孰れ此等の点も拍眉之節可申上候へ共不取敢過日水道局長之任用ニ關し申上候處と相違を生し候間為念

御通知旁御報迄此如御座候。 敬具

この書簡には、それまでの水道瓦斯局を水道局と瓦斯局に分離して公益事業を拡充すること、水道局長心得に堀江勝巳、瓦斯局長心得に渡辺扶ら帝國大学理工科出身の専門家を安置する上よりも又部内之奮發心を喚起する上よりも且又経費節約の上よりも現任之堀江水道技師及渡辺瓦斯技師ハ人格の点ニ於て非難なく技術又優秀と被認候間當分之を局長心得ニ据え事務処理上支障なきを確

取斗らふ事ニ致候間御承知被下度候。尚今後吏員之採用ハ充分慎重ニ致度任用規程を設くると共ニ詮衡委員を設け總而之が同意を得るにあらされハ任用せざる事ニ致候。且又各部局課の事務処理上連絡なきが為め往々支梧マツラを生ずる哉の憂有之候ニ付毎週一回局課長会議を開き之に監査員を交え監査上の注意を陳べしめ各局課の意見をも聞之事ニ致候。之より部内の吏員の能不能勤惰を充分精査致し信賞必罰の実を挙げ度希望ニ有之候。殊ニ上級吏員之数多く下級の吏員の手当可驚小額の様被存為は吏員ハ内職を本収入とするものすら有之哉ニ承り意外の感を催し候次第此等も予算を整理し費額を増加せず而此等の吏員之給与を相当ニし専心市の事務ニ從事せしむる様為致度存居候。孰れ此等の点も拍眉之節可申上候へ共不取敢過日水道局長之任用ニ關し申上候處と相違を生し候間為念

御通知旁御報迄此如御座候。 敬具

有吉市政を支えたのは、民政派の三宅磐、政友派の赤尾彦作ら政黨幹部と、原富太郎、中村房次郎ら横浜財界の有力者たちであった。この協力体制は「協調市政」と呼ばれたが、安定しているかにみえた有吉市政も、昭和三年八月永代借地権買収疑惑問題で田村清吉助役が参考人に召喚され、九月橋岡徹助役が收賄容疑で起訴されると、一〇月から十二月にかけたの市会では市長の責任が追求される事態となつた。結局、赤尾・三

宅らの擁護により、一二月に市長信

を厳しくして、給与等の待遇を改善することなど、市の職制改革案の大綱が示されている。水道局と瓦斯局について、市会に先立ち参事会員の三宅、赤尾の了解を得たいとの希望を中村に伝え、理解を求めるものである。その後三月一日の市会で、政友会、民政党的支持により、有吉市長の推薦する元東京市助役で気鋭の大西一郎が助役に決定した。また、四月二十四日に横浜復興祝賀会を開催して復興事業を完了させた有吉は、本人の辞意に反し、五月三日の選挙で再選された。

有吉は市長を退任後も、昭和八年から一七年まで横浜商工会議所会頭として、横浜の発展に協力を惜しまなかつた。次に紹介するのは、会頭として、東京開港問題に関し中村に報告した昭和一五年六月九日付の書簡である。

有吉は市長を退任後も、昭和八年から一七年まで横浜商工会議所会頭として、横浜の発展に協力を惜しまなかつた。次に紹介するのは、会頭として、東京開港問題に関し中村に報告した昭和一五年六月九日付の書簡である。

（省略）而して市会ハ平沼議長と打合せ二十八日頃ニ召集の事ニ相談致置候ニ付其劈頭例の助役問題を解決致度存候ニ付てハ宜敷御意慮願上候。仍て二十五日にハ三宅赤尾両氏に先以て其了解を求め度希望ニ有之是又併せて御含願上候。（省略）

（省略）先般米内相蔵相次て来浜其都度横浜有志より東京開港に関する横浜市民之関心のある所を陳述致し両相充分に了解致與れ候儀と推察仕候。殊に昨日桜内蔵相の答辭ハ誠に眞実を吐露し呉れは以上の表明ハ当局者とし而ハ六ヶ敷事と存し一同も満足致候儀ニ有之候。（省略）

東京を貿易港として開港しようとする東京市とこれを阻止しようとする横浜市は、昭和一三年から政府当局へ建議・陳情運動をおこなつて全



中村房次郎
(松崎仁氏所藏)

省OBとして中央に人脉を持つ有吉は、この問題の斡旋に力を尽した。書簡にもあるように、横浜市に向ふは来浜した児玉秀雄内相や桜内幸雄蔵相に伝えられ、両相とも充分了解したようだと推察している。

翌年五月、新任早々の半井市長や有吉と交渉を続けていた河田蔵相が、米貨公債の一部を政府が補給金として肩代わりするかわりに、横浜市は東京の部分開港を認める案を提示するや、急転直下妥協が成立、六日閣議決定で懸案が解決した。こうした展開を推察できる史料が、昭和一六年五月一九日付の中村あて伊沢多喜男書簡である。この書簡によると、伊沢と有吉、半井らは連絡を取りあい「手打」に動いていたようである。また伊沢が内務省内の反対派への「弁解」役を引き受けていたことが記されていて、内務省内の派閥の存在をほのめかしている。なお、こうした元官僚の力に依存した体制には市会から反発の声があがつたが、詳細は『横浜市会史』を参照されたい。

啓上 巷間伝ふる所に拠れば市長大西氏は大岡助役の召喚を見るに至りたる場合辞表提出の意固きもの有之候由若し事実とすれば小生として大西氏の為に深き遺憾を覚ゆるものに候。事件が其処まで進展したる場合大西氏が市長として重大責任を感じらるゝこと素より当然に御座候。然らば大西氏としては先づ市会の代表者たる正副議長並に参事会員に対し其衷情を披瀝し市の為に市長として如何なる行動に出づべきかを懇談するが当然に候。而して右の代表者諸氏にまた其所属団体に之を報告し以て審議を尽したる上全議員の意向として此際「辞任すべきにあらず、須らく市機関の建直しを速かに断行し、更に今回の事件に対する善後策を樹つべし」是れ市長としての当面の最大責任なりとの決議を大西氏に伝達すること、ならば公明正大市長の任務始めて世上に認識せらるべしと愚考仕候。辭表を出して之を撤回せしめ又は再選挙の方法に出づるが如きは縦ひ結果としては同一ならんも是れ市長の職と大西氏其人との間に取扱ひ上主客顛倒すること、相成可申候。風説を耳にし一応小生の所信を御参考までに御座右にいたし申候。草々

昭和九年九月に公判が開始された異常水道汚職事件は、一〇月には横浜市水道局、電気局にも波及し、堀江市水道局長ら市首脳部にまで司直の手が及ぶ一大疑獄事件に発展した。この書簡は、引責辞任を渡す大西市長に対し、市長として責任を果たすことは市会と懇談し、市会の決議（たとえば市機関を直立し、事件の善後策をたてる）により責任を全うすることが必要だと、三宅の所信を中村に伝えたものである。しかし一月九日に永田兵三郎土木局長、一〇日に大岡大三助役らが召喚されると、大西市長は同日辞表を提出した。結局与党は緊急市会で辞職不承認決議を採択し、これを阻止した。

こうした展開に原富太郎も、一二月六日付で、大西市長を擁護する書簡を中村に送った。

して又ハ種々の功績を挙けられ候人
を掌を反すか如き振舞此れか現在の
人情とすれハ実ニイヤニ相成申候。
御留守中の事ニ付右新聞ニ葉封入仕
候。御一読被下度候。

○田辺議長副議長などニ両巨頭ト共
ニ内話せざる事ハ悪かる可き哉とも
存候。御高見如何哉。孰れ拌顔之上
申上候。

留任した大西市長は、横浜疑獄事
件に対処するため、一二月四日大規
模な人事異動と機構改革を発表して
人心の刷新を断行しようとしたが、
これに市会の一部議員が反発し、市
長再選阻止を公然と新聞に発表した。
書簡からは、この報道を見た原が民
政派の三宅、政友派の赤尾らに事態
の收拾を働きかけ、市長擁護に動い
たことがわかる。しかしこの後、協
調市会と市長との関係はきしみ、翌
年市長は青木周三に交替する。

以上、中村房次郎あて書簡五通を
簡単に紹介したが、今回紹介できな
かった数多くの書簡を含め、その内
容はきわめて重要なものが多い。民
政党系官僚グループの総帥的存在で
あつた伊沢多喜男と、生涯「畏敬お
かざる心友」の交わりを結んだ中村
であつたからこそ、伊沢に関係の深
い市長や政財界の人々の貴重な書簡
が多く残されたのであり、今後他の
史料とつきあわせることにより、横
浜市の政治過程を明らかにすること
ができると思われる。

横浜貿易新報社長三宅磐は、市会議員、衆議院議員、立憲民政党横浜支部長を歴任し、政友派と協調して大西市政を支えた人として知られる。

昭和九年九月に公判が開始された異常水道汚職事件は、一〇月には横濱市水道局長ら市首脳部にまで司直の手が及ぶ一大疑獄事件に発展した。この書簡は、引責辞任を渡らす大西市長に対し、市長として責任を果たすことが必要だと、三宅の所信を中村に伝えたものである。しかし一月九日に永田兵三郎土木局長、一〇日に大岡大三助役らが召喚されると、大西市長は同日辞表を提出した。結局与党は緊急市会で辞職不承認決議を採択し、これを阻止した。

こうした展開に原富太郎も、二月六日付で、大西市長を擁護する書簡を中村に送った。

史料とつきあわせることにより、横浜市の政治過程を明らかにすることができると思われる。

閲覧室から

横浜開港資料館所蔵

聖書資料 (6)

提摩太前後提多腓利門書 新約聖書
翻訳委員社中〔ヘボン・ブラウン訳〕

横浜米国聖書会社 明治一三(一)

八八〇年 和装 整版 23cm 一

冊(11、8、5、3丁) 書名は題

簽による 卷頭「使徒パウロテモテに贈れる前書」ほか

〔193.7-13〕

士師記路得記 旧約聖書

〔P.K.Fyson 訳〕

横浜北英國聖書会社 明治一七

(一八八四)年 19cm 一冊(99、13p)

〔193.2-6〕

撒母耳前書 旧約聖書

〔P.K.Fyson 訳〕

横浜北英國聖書会社 明治一七

(一八八四)年 19cm 一冊(127p)

〔193.2-7〕

● 閲覧室からのお知らせ

十字架のものがたり

〔ヘボン著 奥野昌綱訳〕 横浜米

國聖教書類会社 明治一五(一八八

一)年 19cm 一冊(16p)

〔198.3-3〕

本誌五二号より六回にわたり、当

館所蔵の聖書及び注釈書を紹介してきました。請求番号を「[]」で示しましたので、閲覧室でご覧下さい。

十字架のものがたり
〔ヘボン著 奥野昌綱訳〕 横浜米
國聖教書類会社 明治一五(一八八
一)年 19cm 一冊(16p)
〔198.3-3〕

「十字架のものがたり」は、安政六(一八五九)年に来日したヘボンが、奥野昌綱とともに和訳し、当初木版で刊行された。明治一五年には活字本が刊行され、明治三一(一八九八)年までに一〇版を重ねた。当館のものは、活字本の初版本である。(右崎康子)

「十字架のものがたり」



▼展示

- 「新時代への胎動—開化期の横浜市民」
4/29(水)~7/26(日) 明治初めの文明開化期、社会や文芸、政治や地方自治など多様な場で活躍する横浜の人びとの姿を紹介します。

なお、5月9日、6月13日、7月11日の午後2時から展示担当者が資料解説を行います。
(2)「アーネスト・サトウと幕末維新の日本」(仮称) 7/29(水)~10/25(日) 当館が所蔵する英国の外交官アーネスト・サトウの資料をおして、黎明期の日英関係の歴史をたどります。

▼寄贈資料

- 横浜の外国商館が発売した懐中時計 6点(保土ヶ谷区西谷 江口茂氏)
- 絵葉書及び図書 284点(中区本牧大里町中村豊氏)
- 横浜名所民国情緒濃厚なる支那街(山下町) 絵はがき 1点(地区万騎が原 宇野原肇氏)
- 『横浜毎日新聞』第254号(明治4年10月2日) 1点(佐賀市村木 野中萬太郎氏)
- 『日露海戦記』など図書114点、『アサヒグラフ』など雑誌966点、「国会議事堂」複製写真1点 計1,081点(鎌倉市小町 岸秀雄氏)
- エリスマン氏らシーベル・ヘグナー商会社

資料館だより



▲絵はがき「彩色写真による明治の横浜」5枚1組・400円(本体価格) 当館・受付で販売しております。

- 員集合写真ほか 131点(神戸市東灘区深江南町 ベーカー明子氏)
(7) 明治維新、自由民権、及び明治大正政治史関係蔵書 12,000点(東京都練馬区中村南遠山茂樹氏)

▼寄贈資料

- 園部文雄旧蔵資料 2点(和歌山市園部園部俊氏)
- 小野静枝家文書 2点(神奈川区三ツ沢南町 小野静枝氏)

▼新刊案内

- 『図説横浜外国人居留地』(横浜開港資料館編)(㈱有隣堂発行) A4変型・123頁 本体価格3,200円
- 『横浜近代経済史研究』(横浜近代史研究会編 横浜開港資料館発行) A5版・169頁 本体価格1,800円
- 『日記が語る19世紀の横浜』(横浜開港資料館/横浜近世史研究会共編 ㈱山川出版社発行) A5版・320頁 本体価格2,572円

▼訃報

当館横浜開港普及協会理事・堤 芳正(つつみ・よしまさ=元ホテルニューグランド監査役)が3月27日午後3時20分、肺炎のため76歳で亡くなりました。堤氏は横浜開港資料館に石けん工業の創始者堤磯右衛門関係の資料を提供するなど多大な貢献をしていただきました。謹んで御冥福をお祈りいたします。